

大阪市教育委員会の識字・日本語施策 について



令和元年9月17日(火)

大阪市教育委員会事務局生涯学習担当

基本的な情報 1 (大阪市住民基本台帳より)

○大阪市の総人口

2,714,484人(平成30年12月末日現在)

○外国人住民数

137,467人(平成30年12月末日現在)

○人口に占める在留外国人の割合 5.07%

(都道府県・政令指定都市の中で最高)

⇒約20人に一人は、外国籍住民。

○外国籍住民国籍別(上位10カ国)

1. 韓国及び朝鮮	66, 595人
2. 中国・台湾	39, 547人
3. ベトナム	13, 368人
4. フィリピン	3, 928人
5. ネパール	1, 877人
6. 米国	1, 600人
7. インドネシア	1, 350人
8. タイ	1, 137人
9. ブラジル	937人
10. インド	633人

基本的な情報 3

○増加傾向にある国（上位5か国）

国	H25	H30	増加数
中国・台湾	28,495	39,547	11,052
ベトナム	1,995	13,368	11,373
ネパール	616	1,877	1,261
フィリピン	2,936	3,928	992
インドネシア	494	1,350	856

参考（城東区の概要）

○住民基本台帳人口（平成30年12月末）
169,986人

○外国人住民数
5,332人（+554人）（平成25年12月末 4,778人）
比率3.14%

○国籍別
韓国・朝鮮 2,523人、中国1,766人、ベトナム
305人、フィリピン172人、米国72人など

内 容

- 1 日本語教育の推進に関する法律(目的)
- 2 識字とは(大阪市識字施策推進指針より)
- 3 大阪市内における識字・日本語教室の設置状況
- 4 教室の様子と教室でのボランティアの役割
- 5 教室で大切にしていること

日本語教育の推進に関する法律Ⅰ（目的）

令和元年6月28日

「日本語教育の推進に関する法律」公布・施行

（目的）第1条

日本語教育の推進は

- ・我が国に居住する外国人が日常生活及び社会生活を国民と共に円滑に営むことができる環境の整備に資する
- ・我が国に対する諸外国の理解と関心を深める上で重要である

日本語教育の推進は

- ・多様な文化を尊重した活力ある共生社会の実現
- ・諸外国との交流の促進並びに友好関係の維持発展に寄与する。

「大阪市識字施策推進指針」（平成5年）

のめざす社会

だれもが人間として尊重され、

だれもがいきいきと暮らし、

だれもが楽しく学ぶ

識字とは、単に文字を操作する力に止まるものではなく、社会の主體的な構成員として、その社会自身をより良いものへと作り変えていけるような、一連の知識、資質、技能、態度、能力、これらを身につけていく取組の総体のことである。

・ 識字とは

識字を、手話や点字を含め、社会の構成員がその社会に参加していくための基本的な要素であり、人権にかかわる問題として定義する。

識字教室(20教室(8区))

- 趣旨

差別や貧困、歴史的経緯などにより学習の機会を得られなかった人や、新たな渡日者や外国籍住民など、様々な理由により、読み書きや日本語の会話等に不自由している人々の実生活に即した多様な基礎的ニーズに応える開かれた成人基礎教育の場

- 参加者の状況(平成29年度)

識字教室コーディネーター 16人

学習者登録345人 のべ6,156人参加

学習支援者189人 のべ4,190人参加

地域識字・日本語交流教室(15教室(14区))

- 趣旨

地域に身近な小学校を活用した生涯学習ルーム事業の一環として、地域住民どうしの交流を中心とした、文字のよみかきや日本語学習支援の場。様々な人に開かれた教室として、市民ボランティアが地域・異文化理解のための相互学習を行う。

- 参加者の状況(平成29年度)

学習者登録426人 のべ6,267人参加

学習支援者207人 のべ5,155人参加

社会教育施設モデル教室

- 趣旨

市内の識字・日本語学習支援のモデル教室として、開設。多様な学習ニーズに応えるため、実験的・先進的な取り組みや教材・プログラムの開発・ボランティア研修の企画等を行っている。

- 参加者の状況（平成29年度）

学習者のべ6,841人参加

学習支援者のべ3,941人参加

教室の様子（マンツーマン学習）



教室の様子(グループ学習)

¥



教室の様子(全体学習)

¥



大切にしていること（学習支援者）

- ・学習者に寄り添い、何を学びたいかを聴いて学習活動を行う。
- ・学習者が自分の思いを文章として表現できるようにすること。そのために学習者さんのもつ力をたいせつにしてきた。
- ・困った時にまた帰ってこられる場となるようにしたこと。
- ・読み書きの大切さはもちろんであるが、持っている悩みなどにも対応できるようにおしゃべりも大切にしている。
- ・話すことより聴くこと。
- ・「学習者」としてでなく友人として対応。共に学ぶという姿勢をもって活動。
- ・学びの場であるが、出会いの場としての側面も大切に。
(識字・日本語教室拡大交流会での意見)

えんぴつポスターの一部内容紹介

- 70さいではじめてじぶんのなまえをかきました。まなぶのは、こころがうきうきします。
- 日本でながいですがどかんじはじょうずじゃないです。しごとばかりで勉強するチャンスなかなかむずかしいです。
- 先生と知っていく 日本の文化！ 日本語だけじゃなくて 文化も勉強しています。
- 日本についていろいろなことを学びます。せんせいはとてもやさしいだから、毎週すごく楽しいです。
- どこの国のひとも 男のひとも 女のひとも 学びあえるばしょ それが私たちの「教室」です。HOMEです。

まとめ

「識字・日本語教室」は、
「文字の読み書きや日本語学習を通して交流する場」
「学習者にとっての居場所であり、社会参加の入り口」
「学習者・学習支援者がお互いに知り合い学びあう場
(相互学習の場)」
⇒「日本語を教える人」ではなく、「共同学
習者」として教室活動に関わる。

人と人のつながりを大切に！

